

令和6年度第2回平塚市廃棄物対策審議会議事録

日 時	令和6年8月19日（月）14時から14時30分まで
場 所	平塚市役所本館 3階 302会議室
出席委員 （9名）	原田委員、陶山委員、野崎委員、白石委員、小林委員、上原委員、中元委員、 生田委員、工藤委員
事 務 局 （12名）	環境部長、環境政策課長、収集業務課長、環境施設課長、環境施設課施設 管理担当課長、環境政策課資源循環担当長、収集業務課収集・分別推進担当長、 環境施設課施設整備・広域担当長、環境施設課事業センター担当長、環境施設 課リサイクルプラザ担当長、環境施設課破碎処理場担当長、担当者1人
傍 聴 者	なし

1. 開会

2. 議題

（1）一般廃棄物の処理手数料等の額の改定について（答申書）素案

（会長）

議題1「一般廃棄物の処理手数料等の額の改定について（答申書）素案」に関して、事務局から説明をお願いします。

（事務局）

答申書素案について説明

（会長）

何か御質問、御意見等ございますか。

（委員）

産業廃棄物についての処理手数料の改定とありますが、市が処分する産業廃棄物とはどのようなものでしょうか。

（事務局）

基本的に市の施設は一般廃棄物の処理施設ですので産業廃棄物を処理する機会はありません。しかし、あわせ産廃として法律上産業廃棄物を処分できる規定があります。例えば地震等の災害があり産業廃棄物の処理が既存の施設でできなくなった場合に市が産業廃棄物を受け入れる可能性がありますので、そういった事態を想定しての規定となります。

（委員）

それらは産業廃棄物という解釈でよろしいのでしょうか。産業廃棄物を所管されている神奈川県環境調整課の委員がいらしていますが、御見解はいかがでしょうか。

（委員）

あわせ産廃も産廃ですので、産業廃棄物として規定して支障はないかと思います。

(会長)

何か他に御質問、御意見等ございますか。
ないようでしたら、素案として承認いただいたものといたします。
ありがとうございました。

(2) ごみ収集業務のデジタル化について

(会長)

議題2のごみ収集業務のデジタル化について、事務局から説明をよろしくお願いします。

(事務局)

ごみ収集業務のデジタル化 令和5年度報告について説明

(会長)

何か御質問、御意見等ございますか。
資料を確認すると、よい結果が出ていると見受けられますが今後はこれを拡大の方向になるのでしょうか。よくなかった点はあるのでしょうか。

(事務局)

令和5年度は計画以上の実績を達成することができました。収集の依頼に対する効率的な対応が可能となり、即時性の向上や軽油の削減、ひいてはCO₂排出量の削減ができました。今後は計画した3年間の目標を達成できるよう事業を継続実施しつつ、今回の計画以降の取組を検討していきたいと思えます。

(会長)

何か他に御質問等ございますか。

(委員)

2点ほど教えていただきたいことがあります。

1点目はCO₂排出量のKPI（評価指標）についてです。令和5年度末の計画値と実績値が掲載されていますが、計画以前はどのような数値だったのかわかれば教えていただきたい。
2点目は、不法排出に対して、このデジタル化がどういったことに寄与しているか教えてください。

(事務局)

1点目について、手元に資料がないため正確な数値ではありませんが、たしか令和3年度末で1台あたり8,400kg CO₂くらいだったと思われます。

2点目の不法排出におけるデジタル化の寄与です。従前から不法排出があった場合は、排出されたものに啓発シールを貼り、現場に残しておくという対応をしていました。デジタル化の導入により、タブレットで現場の写真を撮り、より正確に不法排出の情報を管理・共有することが可能となりました。これにより、指導班が回収を適切なタイミングで実施するため、長期間現場に放置される事態が解消され、地域の方等からの問合せが減少しました。

(委員)

情報が共有できているため、新たな通報があった際も再度現場確認をすることなく説明が可能になり、指導班も計画的な現場対応ができるようになった。そういった効率化がなされたということでしょうか。

(事務局)

そのとおりです。

(会長)

他に何か御質問等ございますでしょうか。

(委員)

アプリのダウンロード数やその活用についてです。ダウンロード数は増加しているということですが、満足度調査の回答率は低いという実態もあります。今後の推進に向けてどのような対策をお考えでしょうか。

(事務局)

アプリの利用推進に関する取組としては、アプリの紹介チラシを作成しイベントでの配布や窓口等の配架を実施しています。またアプリのダウンロード件数に関しては個人単位でみるのではなく、各家庭でダウンロードされているかが目安のひとつと考えます。平塚市は約10万世帯あります。令和5年度末までに3万2千件ダウンロードされていると、3割程度の家庭には普及していると思われます。しかしながらお話のとおり調査の回答が少ないという面もありますので、今後も利便性を含めアプリの周知を図っていきたいと思います。

(委員)

アプリのみに限らずナッジ（行動科学に基づいた小さなきっかけで人々に行動変容を促す手法）の観点で動機づけができればよいなと思いました。鎌倉市では「まちのコイン」という取組をしているようです。

(会長)

他に何かございますか。では御意見等も出尽くしたようですので議事を終了いたします。事務局からその他何かありますか。

(事務局)

次回の審議会の開催は1月か2月を予定しています。事務局からは以上です。

(会長)

それでは、本日の審議会は終了といたします。